

審判講習会 参加報告書

平成 27 年 12 月 28 日
報告者 堀江 友希

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

大会名	平成 27 年度 第 46 回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会
報告者	堀江 友希（実業団連盟）
期 日	平成 27 年 12 月 23 日（水） から 平成 27 年 12 月 24 日（木）
会 場	東京体育館
報告① ■ ゲーム	<p>■ゲーム 主審 堀江友希 副審 細見竜太（大阪） コート主任 野口氏</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>県立旭（神奈川） 対 県立松江商業（島根）の対戦。</p> <p>Pre-Game Conference では、リードで No Working Area にとどまらない事、長身プレイヤーとその周辺のディフェンスに注視することを確認した。</p> <p>反省として、前半、ポストアップした松江商業に対する旭のディフェンスファウルを何本か吹いたが、影響はどうだったか、オフenseプレイヤーのもらい方はどうだったかを考えると、少し過敏に判定してしまったのではないかと話した。</p> <p>ゲーム後、野口氏より、序盤に旭の手のファウルを過敏に吹いたと反省にあったが、その判定が功を奏し、前半は手を使わないよう意識してプレイするようになり、クリーンなゲーム展開になったとお話をいただいた。</p> <p>しかし後半に入り、ゲームの質が変わった。選手が倒れる場面もあり、審判も質の変化に対応する必要があったと反省をいただいた。また、後半にトレイルから吹いた松江商業 7 番の手のファウルは、吹いた位置が高くエリアとしても相手に任せるプレイだった。大切なのは次のプレイに備えた位置どりをする事であるとアドバイスをいただいた。</p>
報告② ■ ゲーム	<p>■ゲーム 主審 加藤始（青森） 副審 堀江友希 コート主任 大野氏</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>桜花学園（愛知） 対 富士学苑（山梨）の対戦。</p> <p>プレゲームカンファレンスでは、長身プレイヤーに対する守り方をしっかり判定すること、桜花学園 4 番・10 番のプレイは特に注視すること、スタートではないプレイヤーが複数人出場する場合は一旦リセットして切り替えることを確認した。</p> <p>ゲーム後、大野氏より、判定基準を示す絶好の試合だったが、未だ薄い。判定基準を確立し、感性を高めることが重要であると反省をいただいた。例えば、シールからリング下へのパスをキャッチしようとするプレイヤーに対する守り方、腕をストレッチはしていないが触れ合いを起こす守り方、ドライブに対してハンズアップはしているが体を斜めにして守ろうとするプレイなど、シリンダーの考え方を再確認する必要があると助言をいただいた。</p>
所感	<p>判定基準の確立を最優先に取り組み、そして質の変化を感じる力と早目に対応できる適応力を養っていきたいと思います。</p> <p>国体まで 2 年を切りました。県外で学んだことを県内でしっかりとお伝えできるよう努力して参りますので、引き続きご指導のほど宜しくお願い致します。</p> <p>最後になりましたが、このような機会をくださった愛媛県バスケットボール協会・四国バスケットボール協会の皆様に深く感謝し御礼申し上げます。本当にありがとうございました。</p>